

文化基礎論I 栗原 詩子	履修年次	クラス	単位	学期
	1-4		2	後期
備考：				

### 【講義の概要】

#### 【テーマ】

聴覚的表象・時間的表象の語り方

#### 【目標】

「聴覚／視覚」「時間／空間」の適切な越境・翻訳を体得すること。聴覚的・時間的対象は、学問の枠組みでは、文字と図版によって視覚的・空間的な表示をともなって考察されるためである。

#### 【概要】

西洋の芸術音楽作品の様々な例を通して、音楽のモデル（規範）やエクリチュール（書法）を適切に言語化する方法を学ぶ。

#### 【各回の内容】

- 1 聴取と読譜のトレーニング1 時間・リズム
- 2 聴取と読譜のトレーニング2 音高と音程、移調と転調
- 3 調性と和声 フォーレ「レクイエム：リベラメ」
- 4 対位法と和声法 バッハ「インヴェンション第1番」BWV772, 「フーガの技法」BWV1080
- 5 対位法と和声法 バッハ「平均率クラヴィーア曲集第1巻第1番前奏曲八長調」BWV846 / グノー「アヴェ・マリア」
- 6 12音の技法1 バッハ「平均率クラヴィーア曲集第1巻第24番フーガ 口短調」BWV869 / シェーンベルク「3つのピアノ曲」Op.11
- 7 対位法 デュファイ「もしも顔が青いなら」
- 8 ソナタ形式1 ベートーヴェン ピアノソナタ 八短調Op.10-1第1楽章
- 9 ソナタ形式2 シューマン ピアノソナタ
- 10 ソナタ形式3 ベルク ピアノ・ソナタOp.1
- 11 響きと形式1 ワーグナー《トリスタンとイゾルデ》
- 12 響きと形式2 ドビュッシー「12の練習曲」第10曲
- 13 響きと形式3 ドビュッシー 交響的素描「海」
- 14 対比 ヴェルディ「レクイエム：キリエ」 ・ ベルリオーズ「キリストの幼時」
- 15 まとめ

#### 【テキスト】

大学生協にてワークブック『文化基礎論L』（予価900円）を入手すること。

#### 【参考書等】

- ・島岡譲『和声のしくみ・楽曲のしくみ 4声体・キーボード・楽式・作曲を総合的に学ぶために』音楽之友社、2006.
- ・芥川也寸志『音楽の基礎』岩波新書、1971.
- ・石桁真礼生他『楽典 理論と実習』音楽之友社、1998.
- ・片桐功他『増補改訂版 はじめての音楽史 古代ギリシアの音楽から日本の現代音楽まで』音楽之友社、2009.
- ・久保田慶一『キーワード150 音楽通論』アルテスパブリッシング、2009.

#### 【成績評価の方法】

以下の2課題により成績評価を行う。

1. ワークブックの提出（70点）
2. 指定されたコンサートのレポート（30点）

#### 【履修上の注意】

（1）授業中に提示する音響資料は、個人の復習のために録音が可能ですが、貸与やダビングの要請には、応えられません。

(2) 「コンサート分析」の実習の一環として、福岡市近郊で開催されるコンサートの見学が必要です。入場料は自費負担(学生料金で1500~2500円)です。